

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成24年10月4日(2012.10.4)

【公表番号】特表2012-502119(P2012-502119A)

【公表日】平成24年1月26日(2012.1.26)

【年通号数】公開・登録公報2012-004

【出願番号】特願2011-525440(P2011-525440)

【国際特許分類】

C 08 G 18/44 (2006.01)

【F I】

C 08 G 18/44 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月20日(2012.8.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0130

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0130】

実施例21：比較例17対本発明による実施例18、19および20の接触角および100%モジュラス

被覆物の製造および接触角および100%モジュラスの決定は、実施例12に記載の通り行う。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

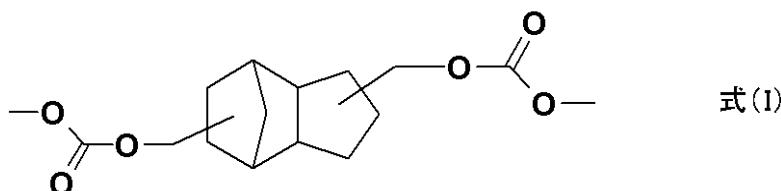
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式(I)：

【化1】



で示される構造単位を有し、および少なくとも1つのポリエチレンオキシドおよびポリブロピレンオキシドのコポリマー単位で末端化された少なくとも1つのポリウレタンウレアを含むポリウレタンウレア溶液。

【請求項2】

存在するポリウレタンウレアは、イオン基またはイオノゲン性基を含まないことを特徴とする、請求項1に記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項3】

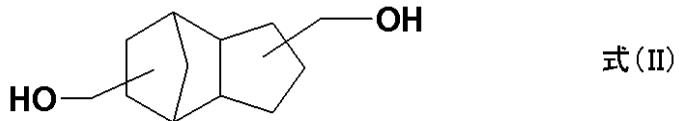
存在するポリウレタンウレアは、好ましくは1.7～2.3の平均ヒドロキシル官能価を有するポリカーボネートポリオール成分をベースとすることを特徴とする、請求項1ま

たは 2 に記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項 4】

ポリカーボネートポリオール成分は、炭酸誘導体と、式(II)：

【化 2】



で示される 2 官能性アルコールとを反応させることにより得られるポリカーボネートポリオール a1) を有することを特徴とする、請求項 3 に記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項 5】

ポリカーボネートポリオール成分は、ポリカーボネートポリオール a1) だけでなくさらなるポリカーボネートポリオール a2) をも有することを特徴とする、請求項 4 に記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項 6】

ポリカーボネートポリオール a2) は、1.7 ~ 2.3 の平均ヒドロキシル官能価および 400 ~ 6000 g/mol の OH 価により決定された分子量を有し、ヘキサン-1,6-ジオール、ブタン-1,4-ジオールまたはこれらの混合物をベースとする化合物であることを特徴とする、請求項 5 に記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項 7】

連鎖停止に用いるポリエチレンオキシドおよびポリプロピレンオキシドのコポリマー単位は、アルキレンオキシド単位の全画分を基準として少なくとも 40 mol % エチレンオキシド単位および 60 mol % 以下プロピレンオキシド単位をベースとする、500 g/mol ~ 5000 g/mol の数平均分子量を有するモノヒドロキシ官能性混合ポリアルキレンオキシドポリエーテルをベースとすることを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項 8】

存在するポリウレタンウレアは、ジメチルアセトアミド中において 30 で計測された 5000 ~ 100000 g/mol の数平均分子量を有することを特徴とする、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項 9】

溶媒として、ジメチルホルムアミド、N-メチルアセトアミド、テトラメチルウレア、N-メチルピロリドン、トルエン、直鎖および環式エステル、エーテル、ケトンおよびアルコールまたはこれらの混合物を含むことを特徴とする、請求項 1 ~ 8 のいずれかに記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項 10】

溶媒として、トルエンおよびエタノール、n-プロパノール、イソプロパノールおよび / または 1-メトキシ-2-プロパノールの混合物を含むことを特徴とする、請求項 9 に記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項 11】

医薬活性剤を含む、請求項 1 ~ 10 のいずれかに記載のポリウレタンウレア溶液。

【請求項 12】

ポリカーボネートポリオール成分 a)、少なくとも 1 つのポリイソシアネート成分 b)、少なくとも 1 つのポリオキシアルキレンエーテル成分 c)、少なくとも 1 つのジアミンおよび / またはアミノアルコール成分 d) および必要に応じてさらなるポリオール成分を互いに反応させる、請求項 1 ~ 11 のいずれかに記載のポリウレタンウレア溶液の製造方法。

【請求項 13】

請求項 1 ~ 11 のいずれかに記載のポリウレタンウレア溶液から得られるポリウレタンウレア。

【請求項 1 4】

請求項 1 3 に記載のポリウレタンウレアを用いて得られる被覆物。

【請求項 1 5】

請求項 1 4 に記載の被覆物で被覆された基材。